

いろどり通信第2号

(旧悠久の郷だより)



住宅型有料老人ホーム
ひなの家彩~いろどり~
野々市市郷1-131
TEL.076-241-6688

「悠久の郷」から「ひなの家 彩~いろどり~」へ新たなスタート 人生に彩り添えて幸せに~にぎやかに改名式

「悠久の郷」から「ひなの家 彩~いろどり~」（以下、ひなの家彩）の改名式が6月1日、野々市市郷のホーム正面玄関前でありました。

式には、てまりグループやホーム関係者約60人が出席。グループの橋本昌子社長が「ほとんどの方が人生最期の時を過ごされる老人ホーム。介護の現場に、もっと彩りを添えて、入居者の方や地域の方に喜ばれるホームにしたい。そんな思いを込めて名づけました」とあいさつ。

来賓で、ホームの土地所有者の安原透さん（野々市市議）が「この老人ホームの新たな出発をうれしく思います」とお祝いの言葉を述べました。

次いで、この日採用された松原美幸主任看護師に辞令を交付しました。最後に出席者が「ナンバー1を目指そう」と指で「1」を示した記念写真を撮りました。



ホームは2014年創立した住宅型有料老人ホーム。19年12月、悠輝会からてま

りグループが運営を引き継ぎました。47室（48床）があります。要介護1~5の人

が入居対象。多職種が連携し、充実した介護サービスに努めています。

看板も新調



ひなの家彩への改名に伴い、ホーム駐車場のそばに立つ大看板（縦3.9m、横1.5m）を新調しました。

記念のデコレーション



正面玄関に新たなスタートを記念した「irodori open」としてしたデコレーションと、バラの花（模造）やパンフレット、加湿器を置く飾り棚を設置しました。

ホームにカラフルな彩り添える

プランターに花植える

ホームを色とりどりの花で飾ろうと5月26日、入居者やスタッフがプランターに花を植えました。

大小約10個のプランターや鉢にマリーゴールド、日日草、サルビア、ペゴニア、ペチュニアなどを植えました。軍手をはめた高齢者の中には以前、花屋さんだった女性もいて、土に肥料を交ぜたり、苗を丁寧に植えたりして、額に汗して作業をしていました。

夏から秋にかけてきれいな花が咲き誇り、入居者を癒します。

.....

ホームで一斉に草むしり

梅雨時期を前にホーム周辺で伸びた草を刈り取る作業が5月22日、スタッフ総出でありました。

スタッフがそれぞれカマで雑草を刈り取ったり、ほうきでごみを掃いたりして外観美化に努めました。



プランターに花を植える入居者やスタッフ



職員総出で草をむしり環境美化に努めた

また、駐車場そばの畑でも、伸びきった雑草を電動草刈り機を使ってきれいに刈り取りました。

洋画2点を新たに展示

ホームの土地所有者である安原透さんから、父親の故尊三（たかみ）さん＝元一水会くろつちグループ会



員＝の作品2点（20号と30号）をお借りし、1階玄関や廊下に展示しました。鳥や農村風景を描いた洋画。これで尊三さんの作品計7点を展示しています。



スタッフ紹介②

介護士 宮添 富士子さん



入居者の立場で考える

認知症になった祖母の介護をしていたヘルパーが相手への接し方や気持ちをつくみ取ることが上手だった。「あんな仕事をしたい」と6年前、旧悠久の郷で介護士として働き始めた。最初は耳の不自由な高齢

信条は「いつも入居者の立場で考える」。趣味は読書。最近、浅田次郎の「天子蒙塵（もうじん）」を読んで、中国の壮大な歴史に感銘を受けた。

男性を担当。身振り手振りで思いを伝えてきた。うまく通じないと、いらだつて投げたり。毎日、接していると、思いが通じ、男性が頼ってくるようになった。

家族も「あなたがいるから安心」と信頼を寄せる。仕事が楽しくなった。